



画：ブライアン・ウィリアムズ／「春の湖畔」 曲面絵画

第 61 期 中間報告書

平成26年7月1日 ～ 平成26年12月31日

SANTO
株式会社 三東工業社



株主のみなさまへ

現場力を強化し全社一丸となって 通期の業績目標達成へ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第61期第2四半期累計期間(平成26年7月1日から平成26年12月31日まで)の事業活動が終了いたしましたので、当第2四半期累計期間の業績、経営施策および今後の取組みについて、ご報告させていただきます。

今後とも、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成27年3月

株式会社 三東工業社

代表取締役社長 奥田 克実

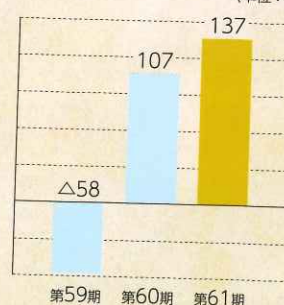
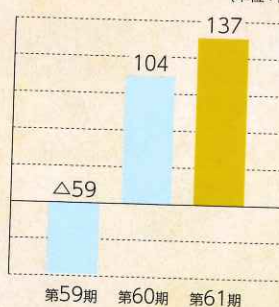
Q 当第2四半期累計期間の業績は？

A 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策などの効果を背景に円安、株高が進み、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復傾向で推移いたしました。

建設業界では公共事業予算の増加、公共工事設計労務単価の引上げなどで明るさが見え始めております。このような状況下で当社は、現場力の強化、経費削減およびリスク管理強化に努めました。また、前期に一部工事で、受注時積算価格と実際の工事原価との乖離により赤字が発生しましたが、施主様との交渉により請負金額増額の合意に至りました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は増収増益となりました。

■ 第2四半期累計期間財務ハイライト



Q 当第2四半期累計期間の注力点は？

A 当社では、受注時に将来の環境を見越した精緻な積算を図るとともに、積極的な提案を行い、利益率の高い案件の受注獲得に注力しております。

当第2四半期累計期間には「危機管理センター」（滋賀県発注）、「滋賀銀行栗東支店」の新築工事に取り組めました。「危機管理センター」は自然災害やテロ、新型インフルエンザなど様々な危機案件に対応する総合的な管理拠点として、多方面から完成が注目されております。「滋賀銀行栗東支店」は、最先端の省エネ設備機器を最大限活用することで、CO₂排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の店舗です。

このように危機管理拠点の建設、エコ・ファースト企業の環境保全活動をお手伝いすることで、利益獲得のみならず地元や環境保全に積極的に貢献してまいります。

Q 今後の取組みは？

A 下半期も建設需要は順調に推移すると予測されるものの、建設資材の高騰や建設従事者の不足などから、依然として厳しい経営環境が継続すると思われます。

こうした状況の中で、当社は引き続き現場力の強化を図り、事業遂行上で想定される様々なリスクの回避に注力し、的確な対応策を講じてまいります。

当社では、株主のみなさまへの安定的な利益還元と経営体質の強化を重要な経営方針の一つと位置づけております。当期末の配当金につきましては、1株につき4円の配当を予想し、業績目標の必達に向けて全社一丸となって邁進してまいります。

1株当たり四半期純損益
18.05円



総資産
4,007百万円



純資産
2,447百万円





工事紹介

【土木部門完成工事】喜撰川補助通常砂防(総流防)工事

工 期 平成24年9月～平成26年11月
発注者 滋賀県



現場代理人
土木工部部 工事主任
松本 勝彦



営業担当
営業部 営業課長
北村 寛之

山や谷の土砂が大雨による水と一緒に勢いよく流れてくるものが土石流ですが、昨年の広島の高雨による災害では、その土石流により多くの建物が流され、尊い命が奪われました。この工事はそのような災害を防ぐ堰堤(えんてい)を築造したものです。現場は琵琶湖の西側、比良山系の一部で、山から平野部までの距離が極めて短かく河川が急勾配で、さらには地層が崩れやすいという施工困難な場所でした。また現場直下はイワナの養殖場のため、絶えず新鮮な水を供給する必要があり、その配慮も大切でした。冬季は何度も除雪作業をし、夏から秋には度重なる台風、集中豪雨に見舞われ、河川増水、法面崩壊、堆積土砂など災害復旧ばかりに追われていたような気がします。苦労は数多くありましたが、現場から出た玉石を使って河床や護岸の補強を行う工夫をし、災害を防ぐだけでなく景観にも配慮した素晴らしい建造物を完成させることができました。



【建築部門完成工事】京滋マツダ大津店新築(1期)工事

工 期 平成26年3月～平成26年12月
発注者 株式会社京滋マツダ



現場代理人
建築工部部 工事長
井上 義昭



営業担当
営業部 営業課長
小野田 直

(株)京滋マツダ様の滋賀の拠点となる店舗を施工させていただきました。建物の中央に事務所があり、そのまわりを囲むようにドーナツ型に作られたショールームは大きなガラス張りで、内装は黒で統一されています。この形は訪れたお客様がショールーム内をぐるりと回遊でき、車を購入する目的だけでなく、車を鑑賞して楽しんでもいただけるようにと考えられ、滋賀初、全国でも3店舗目のスポーティ&アグレッシブなイメージを持つ次世代型店舗となりました。当社といたしましては、店舗を営業されながらの施工で多くの制限はありましたが、設計コンセプトを損なうことなく施主様の希望通り、年明け初売りに間に合うよう無事に建物を完成させることができ、大変うれしく思います。また、現在2期工事も施工させていただいております。次はどのような建物が出来上がるのか、楽しみにしててください。2期工事も全力で頑張ります。



【土木部門施工中工事】平成26年度庄内川中須低水護岸工事

工 期 平成26年10月～平成27年3月
元発注者 国土交通省中部地方整備局



現場代理人
土木工部部 工事長
橋 茂生



営業担当
営業部 営業課長
吉田 新吾

庄内川において当社所有のTRD斜機を使用し、「TRD工法による斜め控え護岸」を施工しております。この工事では機械を設置する場所が狭く、川幅が狭いという地理的要因から、陸側より機械化施工によって造成する「多自然型護岸工法」を採用いたしました。この工法は、自然の河岸に全く手を加えずに施工することが可能で、従来のブロック護岸と比べると出水期を含む通年の施工が可能であり、経費を縮減できるうえ工期も短縮できるため、自然環境に配慮した効率的護岸工法として国交省の推奨工法の中に紹介されております。工事が完了しますと前面土砂侵食時の河川の崩壊が防止され、低水護岸も補強されたうえで、庄内川に生息する生き物の生活を脅かすことなく、流域の人々を河川氾濫から守ることができます。まさに人と自然が共存するための工法といえるでしょう。



トピックス

森林整備ボランティア活動を始めます

去る平成26年9月22日、当社創業60周年を機にCSR活動の一環として森林整備活動を行うための協定を締結しました。

『琵琶湖森林づくりパートナー協定』を結んでおられる金勝（こんぜ）生産森林組合・栗東市商工会の事業に当社が加わり3者間で協定を結んだものですが、金勝山（こんぜやま）の一部に植林をすることと、その保全整備活動が主な活動内容です。将来、訪れた方にお花見も楽しんでいただけるようにとの思いがあり、苗木の種類は山桜を選びました。この春、社員で協力し0.3haの斜面にその苗木を植える予定で、今後は毎年の作業として下草刈などを計画しております。

苗木が大木に成長するころ当社はどのような建物や道路をつくっていることでしょうか。未来に夢をふくらませ、活動を通して社員の絆を深め、苗木の成長を見守りながら、当社も共に100周年をめざして発展していきたいと考えております。



右：金勝生産森林組合長
中：栗東市商工会会長
左：当社社長



財務諸表

■ 四半期貸借対照表(要約)

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 平成26年12月31日現在	前第2四半期 平成25年12月31日現在
〔資産の部〕		
流動資産	3,041,422	3,736,441
固定資産	965,696	1,050,399
有形固定資産	733,011	818,455
無形固定資産	30,200	31,513
投資その他の資産	202,483	200,430
資産合計	4,007,118	4,786,840

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てております。

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 平成26年12月31日現在	前第2四半期 平成25年12月31日現在
〔負債の部〕		
流動負債	1,496,606	2,216,761
固定負債	62,718	66,136
負債合計	1,559,324	2,282,897
〔純資産の部〕		
株主資本	2,408,516	2,469,686
資本金	849,500	849,500
資本剰余金	625,900	625,900
利益剰余金	933,618	994,771
自己株式	△502	△ 484
評価・換算差額等	39,278	34,256
純資産合計	2,447,794	2,503,943
負債及び純資産合計	4,007,118	4,786,840

■ 四半期損益計算書(要約)

(単位：千円)

科 目	当第2四半期累計 平成26年7月1日から 平成26年12月31日まで		前第2四半期累計 平成25年7月1日から 平成25年12月31日まで	
売上高				
完成工事高	2,609,325		2,486,930	
不動産事業等売上高	15,645	2,624,971	12,763	2,499,694
売上原価				
完成工事原価	2,362,043		2,257,590	
不動産事業等売上原価	5,700	2,367,744	13,219	2,270,810
売上総利益				
完成工事総利益	247,281		229,339	
不動産事業等総利益又は不動産事業等総損失(△)	9,945	257,227	△ 456	228,883
販売費及び一般管理費		119,435		124,133
営業利益		137,791		104,749
営業外収益		2,002		4,799
営業外費用		1,850		2,498
経常利益		137,944		107,050
税引前四半期純利益		137,944		107,050
法人税等		14,204		11,762
四半期純利益		123,739		95,288

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てております。

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：千円)

科 目	当第2四半期累計 平成26年7月1日から 平成26年12月31日まで	前第2四半期累計 平成25年7月1日から 平成25年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 164,006	△ 545,479
投資活動による キャッシュ・フロー	1,141	4,637
財務活動による キャッシュ・フロー	370,936	590,593
現金及び現金同等物 の増減額	208,070	49,752
現金及び現金同等物 の期首残高	916,629	613,143
現金及び現金同等物 の四半期末残高	1,124,700	662,895

(注)記載金額は、千円未満を切り捨てております。

● ホームページの ご紹介 ●

より深くご理解いただくため、
当社のホームページをぜひご
訪問ください。株主・投資家の
みなさまに対して、企業情報や
財務情報についての積極的な
情報公開を随時行っておりま
す。また、みなさまからのご意
見もお待ちしております。



<http://www.santo.co.jp>

株 主 メ モ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
基準日	定時株主総会 毎年6月30日 期末配当 毎年6月30日 中間配当を行う場合 12月31日 その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場金融商品取引所	東京証券取引所

株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

技術を社会に 笑顔をあなたに

SANTO
www.santo.co.jp

